

福田地区防災士会が発足

～上条砂防堰堤建設現場で第1回研修会を実施～



令和3年7月18日（日）、かねてより懸案だった福田地区防災士会（14名）が発足し、第1回研修会として午前10時から約1時間、上条砂防堰堤工事現場の見学会を行いました。

この研修会には防災士11名のほか、福田地区自主防災連絡協議会などからの参加も含め、総勢17名の方が参加されました。また、国土交通省から2名、現場事業者の河井建設工業から3名の方が来られました。

会は、最初に福田地区防災士会の発足式が行われ、代表の挨拶と世話人の紹介があり、研修などを通して福田地区での防災活動の充実に向け活動していくことを確認しました。

見学会では最初に国交省工務課の木村課長より、発災当日の現場の状況や砂防堰堤の容量などについての説明がありました。内容は、工事に先立って、土石流の発生を感知するセンサーや土石流を止める防護ワイヤネットの設置を

行ったこと、堰堤の長さは約80mで高さは約14mに達し、約1万3500m³の土砂を止める能力があること（溜った土砂を状況に応じて取り除く管理型砂防堰堤）、今年8月末の完成を予定していることなどが説明されました。ただし、水は止められないため、堰堤下流側に泥水をためて砂などを沈殿させる場所を設置すること、その下流側の水路は広島市が工事を担当することなども説明されました。

河井建設工業さんからは工事の進捗状況と現場の注意事項などについての説明があり、その後一行は堰堤のそばまで歩きながら見学しました。

堰堤設置場所付近の山が削られて地山の状況が分かる所で、越智防災士よりこの地域の地質の成り立ちについての説明がありました。

堰堤に向かって右側（左岸側）は、風化花崗岩の地山（比較的安定した地盤）を掘り込んで堰堤が建設されている様子が見られました。向かって左側（右岸側）では、様々な大きさの角ばったレキが含まれる層が風化花崗岩の上に載っている状況が見られました。ここは過去に基盤の風化花崗岩を削った上に何度も土石流が流れてできた丘であり、桜台から上条までのなだらかな山がそうしてできた所であることが説明されました。

土石流堆積物は、人工的に削られた法面では水の浸食により深く切れ込んだ溝をつくり、表面が崩れやすくなるので種を含んだ土の吹き付けやモルタルで表面を固めるなど、様々な手当てを検討していることが国交省より説明されました。

この日はあいにく小雨のぱらつく中での研修でしたが、いろいろと質問も出され、有意義な研修会となりました。今後は役員会で検討しながら、様々な研修会などを行っていく予定です。

（文責：越智、写真：内田・越智）

●下のページから福田地区防災士会の発足式と第1回研修会の様子を写真で紹介しています。

福田地区防災士会の発足式と第1回研修会の様子



写真1 福田地区防災士会の発足式（上条砂防堰堤建設現場前）



写真2 国交省からの砂防堰堤工事についての説明



写真3 河井建設工業から工事の進捗状況についての説明



写真4 工事中の上条砂防堰堤の全景。工事進捗率約70%の状態。右側（左岸側）の堰堤は、ほぼ上まで工事が進んでいる。写真右端（左岸）は風化花崗岩の岩盤で堰堤はここを掘削して設置している。写真左端の崖には大小さまざまな大きさの白っぽいレキを多く含む堆積層が見える。これが土石流堆積物で、この丘は土石流堆積物の丘といえる。



写真5 堰堤左岸側。風化花崗岩の岩盤を掘削して堰堤を設置している。



写真6 堰堤へ向かう右岸側の崖。角ばった大きさの不ぞろいなレキを含む堆積物が厚く堆積している。これが土石流堆積物の特徴。人工的に切った法面は大雨が降ると深い溝を形成して侵食が進み崩壊しやすい。下半分はモルタルで覆っているが上側も何らかの手当てをする予定とのこと。



写真7 堰堤に向かって左側（右岸側）の崖に見られる土石流堆積物と基盤の風化花崗岩。
ここでは少なくとも4回以上土石流が流れたと考えられる。



写真8 堰堤工事現場下側の様子。写真右側の谷を右下方向へと土石流が流れた。一番上の住宅はほとんど無傷状態。土石流の先頭で押し寄せた流木が堆積し、土石流を防いだため。大型土のう（約2トン）を積んで、水や土砂の危険な流出を抑えている。

福田地区防災士会の役員

代 表 越智秀二（観音）

世話人 新宅忠昭（桜台） 播野廣樹（原山） 山根鶴美（五月が丘）

井手野下義教（山城）

顧 問 久保 正（福田地区自主防災連絡協議会会長）
